

2006年度 早稲田大学 教育学部

日本史 解答

I 古墳文化と大陸文化の伝来 <易>

問1 済・興 問2 陶部(陶作部でも正解) 問3 ア 問4 オ
問5 エ 問6 ウ 問7 イ 問8 ウ

3問ある正誤問題は、消去法である程度絞り込みつつも、ダミーの選択肢の正誤判別が難しいので、一発で正解を選ぶ。

II 東大寺大仏の歴史 <標準>

問1 エ 問2 イ・エ 問3 ウ 問4 ウ 問5 ア
問6 東大寺 問7 重源 問8 松永久秀

問1は難問。しかし、会津八一は早大卒で早大教授となった人物だった。早稲田ではこういうタイプの人物は出題されやすい。もっとも、用語集にも掲載されていない人物をどこまで覚えるかは、判断に苦しむところである。問2はやや難。

III 石田梅岩と二宮尊徳 <標準>

問1 四民 問2 分度 問3 寄場組合 問4 イ 問5 オ
問6 ア・イ 問7 ウ 問8 オ 問9 ア

石田梅岩は意外と出題率が高い人物だが、丁寧に学習していなかった受験生が多いだろう。問6は難問。問4・7は正解することは可能だが、ダミーの選択肢を切るのが難しい。問2は史料を読解すれば十分解ける。

IV 大正時代の外交 <標準>

問1 寺内正毅 問2 イ 問3 ア・ウ・オ 問4 ウ・オ
問5 ア 問6 イ・ウ 問7 イ・オ 問8 幣原喜重郎

早稲田ではもう何度となく出題されたテーマの問題。問3に笑った人もいだろう。しかし、問4・7は「すべて選べ」タイプの正誤問題でやや難しい。ただし、コツを知っていると正解しやすくなる。そのコツは授業で伝授します。問6は学習していた人もいだろうが、大学入試における出題率の観点からすれば難問。

V 岩倉使節団と東京裁判 <やや難>

問1エ 問2エ 問3米欧回覧実記 問4 b 平和 c 人道 問5イ

これまた定番の岩倉使節団の出題。問1・2は推測で解かざるを得ないやや難しい問題。問4はbはともかく、cが難しい。問5はよく考えれば正解できるが、ダミーの選択肢の判別がしにくく難問。

講評

大問のテーマが見慣れないものでとまどった人が多いかもしれないが、冷静に各小問を見つめ直せば、受験会場で焦っていたことがばかばかしくなるだろう。早稲田で出題されやすい定番問題も多かったし。また、「すべて選べ」タイプの正誤問題がいくつもあって、緊張を強いられる。